



2017年1月16日

各位

会社名 株式会社 ベイカレント・コンサルティング
代表者名 代表取締役社長 阿部 義之
(コード番号:6532 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 中村 公亮
(TEL 03 - 5501 - 0151)

のれんの減損テストの実施結果についてお知らせ

本日(2017年1月16日)公表いたしました四半期報告書(第3期第3四半期)における国際会計基準による要約四半期財務諸表、要約四半期財政状態計算書に計上しているのれんは、のれんの減損テストを実施した結果、減損していないため取得原価のまま計上しております。つきましては、のれんの減損テストの実施結果について補足情報を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当社のれんについて

当社は、2014年6月6日に旧株式会社ベイカレント・コンサルティングの全株式を取得し、2014年10月1日に同社を吸収合併するとともにのれんとして19,187,200千円をIFRSに基づいて計上しております。IFRSののれんについては非償却資産であるため、のれんの取得日以降は償却しておりません。当該のれんは、取得日に利益がもたらされる資金生成単位グループの戦略・ビジネスプロセスコンサルティングに5,772,187千円、ITコンサルティングに10,806,965千円、システムインテグレーションに2,608,048千円を配分しております。

2. のれんの減損兆候について

のれんは、配分された資金生成単位グループで管理しており、每期又は減損の兆候がある場合には随時、減損テストを実施しております。2016年2月期にのれんの減損テストを実施した結果、のれんが減損している資金生成単位グループはありませんでした。しかしながら、当社は、2016年12月9日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしたとおり、2017年2月期(2016年3月1日~2017年2月28日)における通期の業績予想を修正したことで、2017年2月期第3四半期決算においてのれんの減損兆候が見受けられたため、のれんの減損テストを実施することとしました。

3. のれんの減損テストについて

のれんの減損テストにおける回収可能価額は、使用価値に基づき算定しております。のれんが配分された資金生成単位グループの回収可能価額は、過去の経験に基づき算定し、稼働率（注1）は安定した水準を維持しつつ、平均単価（注2）と所属コンサルタント数は緩やかに増加する保守的な前提と、外部からの情報を反映させて作成して、経営陣によって承認した最長で3年間の予測を基礎とする使用価値に基づき算定しております。

（注1）稼働率……全所属コンサルタントに対する、ある時点においてプロジェクトに参画しているコンサルタントの割合

（注2）平均単価…各コンサルタントがクライアントから受領する料金の月当たり平均値

今後の事業環境は、事業投資やIT投資に伴う堅調なコンサルティング市場の需要に支えられることを見込んでおりますが、使用価値の算定において外部専門家が当社の事業環境を勘案し割り引いたうえで算定しております。

算定した予測期間における成長率は、4.1%~6.9%となっており、当該3年間を超える期間においては、わが国の中長期経済成長率の見通しを勘案し0.9%を使用して見積もっております。なお、市場もしくはわが国の長期平均成長率を超過する成長率は用いておりません。

これら使用価値は、税引前割引率11.12%~11.38%によりそれぞれ現在価値に割り引いて算定しております。算定された使用価値は、資金生成単位グループの帳簿価額を十分に上回っており、使用価値算定に用いた成長率及び長期平均成長率、税引前割引率について合理的な範囲で変動があった場合にも、使用価値が帳簿価額を下回る可能性は低いと考えております。

その結果、2017年2月期第3四半期会計期間末におけるのれんが減損している資金生成単位グループはありませんでした。

4. のれんの減損が発生する可能性について

のれんを配分した資金生成単位グループで減損が発生する予測期間における成長率が戦略・ビジネスプロセスコンサルティングは△9.3%、ITコンサルティングは△13.9%、それ以降の成長が0.9%となった場合に減損が発生する可能性があります。システムインテグレーションは予測期間における成長率が0.3%、それ以降の成長が0.9%となった場合、または、予測期間における成長率が1.0%、それ以降の成長が0.0%となった場合に減損が発生する可能性があります。

5. 日本基準におけるのれんについて

参考情報として、日本基準におけるのれんは18,867,346千円を計上し、その効果の及ぶ期間を見積もり20年の償却年数にわたって均等に償却しております。その結果、2017年2月期第3四半期会計期間末における帳簿価額は16,508,928千円（償却累計額は2,358,418千円）を計上しております。日本基準におけるのれんについてもIFRSと同様に減損しておりません。

以上